

応用心理学事典

日本応用心理学会 編

編集委員長 岡村 一成

丸善株式会社

刊行によせて

人は人の「こころ」について大きな関心を寄せています。昔から「こころ」とはなにか、「精神」とはなんだろう——という議論が盛んに行われていました。心理学の歴史をたどると、人間が地球上に現れたときにまでさかのぼってしまうほどです。

近年、若い人たちの間で、「心理学」が大変ブームになっています。マスコミでも心理学に関するテーマがよく取り上げられています。好奇心の強い若者たちが「こころ」というテーマに深い関心を寄せていることがわかります。しかし、巷にはこころを探索するゲーム感覚の本や、占い的な興味本位のものが多く氾濫し、科学としての心理学に対する誤解を生じさせています。また、一般に心理学というと、カウンセリングなど心理臨床関係の研究や実践と思われるなど、心理学に対する関心に偏りもみられています。

現代の心理学はその研究領域もきわめて広く、人間行動のあるところすべて心理学の研究分野であるというほど、私たちの生活に密着した学問になっています。そして、心理学の研究は社会の具体的な問題解決に大きな役割を担っているのです。

我が国の応用心理学的研究活動は 1920 年頃からすでに芽生え始めておりましたが、心理学の学会は「日本心理学会」に限られていて、いわゆる実験・基礎の研究が中心でした。このような中で、心理学の研究が社会の具体的な問題解決に資することを目指し、広い専門領域の研究者を糾合して 1936 年に設立されたのが「日本応用心理学会」でした。第二次世界大戦中（1941 年～1945 年）はその活動を停滞していましたが、戦後 1946 年（昭和 21 年）に復興第 1 回大会が開催され、以来本格的な学会活動が展開されてきました。学会の復興当初は、その組織の中に、教育心理部会・臨床心理部会・産業心理部会・犯罪心理部会・相談部会など多岐にわたる部会をもっていましたが、やがて心理学が多くの分野に分化して発

展するようになり、これらの部会はそれぞれ1つの学会として独立していきました。今日、心理学関連の学会はゆうに40を超える、心理学の研究は細分化の傾向を強めつつあります。

このような状況にあっても、日本応用心理学会は、今もさまざまな領域の会員を擁し、学会の志と長い伝統を大切に実績をあげており、心理学界全体の発展にとってその役割はきわめて大きいものと思われます。

そこで、日本応用心理学会では設立（復興）60周年を記念して、現代の心理学が多く分野に分化し、応用され発展してきた内容を、わかりやすく解説し、身近な学問として正しく理解してもらうことを狙いとして、この『応用心理学事典』を企画いたしました。ここでは、現代心理学の代表的な応用領域を15分野で精選しました。心理学に興味をもち、心理学の応用知識を得たい人や、ご自分の専門分野以外で知りたいことのある人が学びやすいように工夫されています。また、中項目主義をとっており、現代の応用心理学全般を眺望できる読み物としても活用できるものです。

この事典は、日本応用心理学会の役員によって各分野の重要な項目が選定され、約240名にわたる会員（一部非会員も含む）の協力を得て執筆されたもので、まさに本学会の英知の結集であります。本事典によって、細分化された現代心理学の諸分野の研究水準が浮き彫りにされ、今後の研究活動に有効な情報を提供することができたことと思います。また、心理学に関心をもつ人々が、心理学に対する偏った知識をなくし、心理学により興味を抱かれ、現代社会におけるさまざまな問題の解決に役立てられることを期待しております。

最後になりましたが、日本心理学諸学会連合加盟学会一覧を掲載するにあたり、ご許可くださいました森正義彦理事長と弘中正美事務局長に厚く御礼申し上げます。

また、本事典の刊行にあたりご尽力いただいた丸善株式会社出版事業部の小林秀一郎氏と松平彩子さんに、心から感謝とお礼を申し上げる次第です。

2006年12月

編集委員長
日本応用心理学会 理事長
岡 村 一 成

編集にあたって

本書『応用心理学事典』は、日本応用心理学会の英知を結集して企画・編集されました。こころを科学的に解明したいという強い欲求と期待が心理学を発展させましたが、その中でも応用心理学は、学問としてかかえる研究領域が大変広いという特徴があります。いうまでもなく、応用心理学は基礎研究とそれに基づいた実践科学といえるでしょう。

本書を企画・編集するにあたり、応用心理学にはいったいどのくらいの分野があり、その中のどの分野を取り上げ、本書の各章として採用するのが最も理想的かを議論しました。思いつくだけでも20を超える候補があがりましたが、「刊行によせて」にもありますように、議論をつくしたすえ、重要な基本的領域を含めて15領域を精選することになりました。編集方針が決定したあと、この分野も入れたほうがよかつたのではないかというご意見も頂戴しました。

編集作業は、本書を心理学に高い関心をもつ多くの人びとに読んでいただきたいという主旨ですすめました。まず、応用心理学という立場から必要な項目を選定しなければなりません。各章の編集者は、読者に最新の学問的知見を提供すること、身近な事実を具体的に説明すること、初めて応用心理学に触れる人でも理解しやすいことを編集の目標にしました。単に項目の解説事典ではないため、その内容をいろいろな角度から記述することができます。各項目は、本書の見開き2ページにまとめました。それぞれが独立していますので、ページをめくるごとに新しい項目を読むことができます。また、読者の視覚的な助けになるように、多くの図、表、写真なども挿入しました。参考文献を紹介している項目もあります。なお、本書の最後には「文献ガイド」を掲載していますので、さらに興味をもたれた読者は、それらの書物を一読してください。

末筆になりましたが、各項目の執筆者には、編集者からのご依頼に快くご協力くださいまして感謝申し上げる次第です。

2006年12月

編集副委員長

藤田主一

編集委員一覧

編集委員長

岡 村 一 成 東京富士大学 学長

編集副委員長

藤 田 主 一 日本体育大学体育学部 教授

編集幹事

田 中 真 介 京都大学高等教育研究開発推進センター 助教授

内 藤 哲 雄 信州大学人文学部 教授

松 浦 常 夫 実践女子大学人間社会学部 教授

編集委員 (五十音順)

浮 谷 秀 一 東京富士大学短期大学部 教授

大 橋 信 夫 日本福祉大学情報社会科学部 教授

荻 野 七 重 白梅学園短期大学心理学科 教授

川 本 利恵子 産業医科大学産業保健学部 教授

大 坊 郁 夫 大阪大学大学院人間科学研究科 教授

田之内 厚 三 麻布大学環境保健学部 教授

玉 井 寛 福島学院大学短期大学部 教授

外 島 裕 日本大学商学部 教授

藤 森 立 男 横浜国立大学大学院国際社会科学研究科 教授

細 江 達 郎 岩手県立大学社会福祉学部 教授

松 田 浩 平 文京学院大学人間学部 教授

執筆者一覧 (五十音順)

青木 偵一郎	岩手県立大学社会福祉学部 教授
浅田 くに	諏訪東京理科大学 非常勤カウンセラー
渥美 公秀	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 助教授
荒木 穂積	立命館大学産業社会学部 教授
荒木 美知子	大阪女子短期大学幼児教育科 助教授
網野 武博	上智大学総合人間科学部 教授
安藤 清志	東洋大学社会学部 教授
安藤 詳子	名古屋大学大学院医学系研究科 教授
飯田 敏晴	四谷マクロカウンセリングセンター 心理士
五十嵐 靖博	山野美容芸術短期大学美容保健学科 講師
生田 倫子	武藏野大学人間関係学部 講師
池田 満	国際基督教大学大学院教育学研究科 博士課程
伊坂 裕子	日本大学国際関係学部 助教授
石河 久美子	日本福祉大学社会福祉学部 助教授
石毛 博	法務省横浜少年鑑別所 所長
石田 敏郎	早稲田大学人間科学学術院 教授
板垣 文彦	亜細亜大学国際関係学部 教授
板津 裕己	高崎健康福祉大学短期大学部 教授
伊藤 武彦	和光大学人間関係学部 教授
伊波 和恵	東京富士大学経営学部 講師
伊野 美幸	文京学院大学人間学部 教授
井上 孝代	明治学院大学心理学部 教授
今林 俊一	鹿児島大学教育学部 教授
岩橋 和彦	麻布大学健康管理センター長
上野 蘭	大阪樟蔭女子大学人間科学部 教授
浮谷 秀一	東京富士大学短期大学部 教授
内田 千枝子	警視庁 心理職
内田 由紀子	甲子園大学人文学部 講師
内山 伊知郎	同志社大学文学部 教授

梅澤伸嘉	(株)マーケティングコンセプトハウス 代表取締役
梅澤佳子	湘南国際女子短期大学国際ビジネス総合学科 講師
大久保康彦	國學院大学栃木短期大学 名誉教授
太田さつき	東京富士大学経営学部 助教授
太田信夫	放送大学教養学部 教授
太田博雄	東北工業大学人間科学センター 教授
大橋信夫	日本福祉大学情報社会科学部 教授
大渕憲一	東北大学大学院文学研究科 教授
大村政男	日本大学 名誉教授
岡村和子	科学警察研究所交通科学部 主任研究官
岡村一成	東京富士大学 学長
岡本浩一	東洋英和女学院大学人間科学部 教授
小川和久	広島国際大学人間環境学部 助教授
小川裕二	國學院大学栃木短期大学初等教育学科 教授
荻野佳代子	早稲田大学女性研究者支援総合研究所 非常勤講師
荻野七重	白梅学園短期大学心理学科 教授
小倉直子	常葉学園短期大学保育科 非常勤講師
小野公一	亞細亞大学経営学部 教授
小野浩一	駒沢大学文学部 教授
恩田彰	東洋大学 名誉教授
開沼泰隆	首都大学東京システムデザイン学部 助教授
垣本由紀子	実践女子大学生活科学部 教授
角山剛	東京国際大学人間社会学部 教授
片寄隆正	航空自衛隊航空安全管理隊教育研究部 主任研究官
加藤聰一	武藏大学人文学部 講師
加藤基子	名古屋市立大学看護学部 教授
金山正子	産業医科大学産業保健学部 教授
嘉部和夫	日本大学商学部 教授
鎌形みや子	(株)日本経営協会総合研究所人事測定部研究開発室長
川瀬隆千	宮崎公立大学人文学部 教授
川地亜弥子	大阪電気通信大学人間科学研究センター 講師
川本利恵子	産業医科大学産業保健学部 教授

川邊 謙	法務省矯正局少年矯正課 企画官
神作 博	中京大学心理学部 教授
神田 直弥	東北公益文科大学公益学部 講師
神田 信彦	文教大学人間科学部 教授
橘川 真彦	宇都宮大学教育学部 教授
吉川 肇子	慶應義塾大学商学部 助教授
岸 太一	東邦大学医学部 講師
岸田 孝弥	高崎経済大学大学院経済・経営研究科 教授
金 娟鏡	東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 博士課程
木村 友昭	財団法人エム・オー・エー健康科学センター 研究員
桐田 隆博	岩手県立大学社会福祉学部 助教授
桐生 正幸	関西国際大学人間科学部 教授
久我 隆一	日本大学文理学部 教授
釤原 直樹	大阪大学大学院人間科学研究科 教授
草薙 和美	東邦大学医学部 非常勤講師
楠本 恭久	日本体育大学体育学部 教授
黒田 稔	日本体育大学体育学部 教授
越河 六郎	松蔭大学経営文化学部 教授
小城 英子	聖心女子大学文学部 講師
小平 朋江	聖隸クリストファー大学看護学部 講師
小西 聖子	武藏野大学人間関係学部 教授
小林 憲一郎	流通経済大学流通情報学部 教授
小林 剛史	文京学院大学人間学部 助教授
子安 増生	京都大学大学院教育学研究科 教授
齊藤 勇	立正大学心理学部 教授
榎原 佐和子	四谷ゆいクリニック ソーシャルワーカー
佐々木 美智子	鹿児島国際大学短期大学部 非常勤講師
佐藤 達哉	立命館大学文学部 教授
佐藤 恵美	白百合女子大学大学院文学研究科 博士課程
佐藤 嘉晃	城西大学別科 助教授
佐野 直哉	明治学院大学心理学部 教授
沢宮 容子	立正大学心理学部 助教授

零 石 礼 子	岩手県立大学社会福祉学部 教授
柴 田 弘 子	産業医科大学産業保健学部 助教授
清 水 裕	昭和女子大学大学院生活機構研究科 助教授
下 仲 順 子	文京学院大学人間学部 教授
下 村 英 雄	労働政策研究・研修機構職務・キャリア分析部門 副主任研究員
杉 浦 義 典	信州大学人文学部 助教授
杉 山 恵理子	明治学院大学心理学部 教授
鈴 木 淳 子	東北大学大学院文学研究科 教授
鈴 木 浩 明	(財)鉄道総合技術研究所人間工学研究室長
鈴 木 譲	科学警察研究所犯罪予防研究室 主任研究官
鈴 木 由紀生	愛国学園大学人間文化学部 教授
関 口 和 代	東京富士大学経営学部 助教授
關 戸 啓 子	徳島大学医学部 教授
田井中 秀 嗣	大阪府立大学看護学部 助教授
大 坊 郁 夫	大阪大学大学院人間科学研究科 教授
高 石 光 一	東京富士大学経営学部 教授
高 久 信 一	日本大学生物資源科学部 教授
高 嶋 正 士	共立女子大学 名誉教授
高 橋 秀 和	横浜市泉福祉保健センターーサービス課 担当係長
高 村 茂	徳島県警察本部科学捜査研究所 人文科長
瀧 本 誓	道都大学経営学部 助教授
瀧 本 孝 雄	獨協大学外国語学部 教授
田 口 真 二	熊本県警察本部科学捜査研究所 研究主幹
田 中 堅一郎	日本大学大学院総合社会情報研究科 助教授
田 中 真 介	京都大学高等教育研究開発推進センター 助教授
田 中 佑 子	諏訪東京理科大学経営情報学部 教授
谷 口 泰 富	駒澤大学文学部 教授
田之内 厚 三	麻布大学環境保健学部 教授
玉 井 寛	福島学院大学短期大学部 教授
玉 井 朋	日本大学大学院芸術学研究科 博士課程
張 貞 京	社会福祉法人大木会もみじ・あざみ寮 相談員
塙 本 伸 一	立教大学現代心理学部 教授

土屋 明夫	日本大学経済学部 助教授
手島 茂樹	東京福祉大学社会福祉学部 教授
寺門 正顕	清泉女学院大学人間学部 助教授
遠山 敏	宇部フロンティア大学人間科学研究科 教授
所 正文	国士館大学政経学部 教授
外島 裕	日本大学商学部 教授
富田 初代	東京成徳大学人文学部 助教授
富永 良喜	兵庫教育大学発達心理臨床研究センター 教授
内藤 哲雄	信州大学人文学部 教授
中尾 久子	九州大学医学部 助教授
長坂 晟	和光大学大学院社会文化総合研究科 修士
長崎 純子	京田辺市療育教室 発達相談指導員
長澤 秀利	岩手県警察本部刑事部科学捜査研究所 主任専門研究員
中島 豊	国士館大学武道德育研究所 教授
中島 彩花	(株)日本経営協会総合研究所人事測定部
長塚 康弘	新潟大学 名誉教授
長繩 久生	(独)労働政策研究・研修機構労働大学校 主任研究員
長野 祐一郎	文京学院大学人間学部 助手
中村 昭之	駒澤大学 名誉教授
中谷 久美	東北大学大学院医学系研究科 非常勤講師
中谷 敬明	岩手県立大学社会福祉学部 講師
中谷 直樹	東北大学大学院医学系研究科 助手
南部 美砂子	公立はこだて未来大学システム情報科学部 講師
西田 公昭	静岡県立大学看護学部 助教授
西山 啓	広島大学 名誉教授
新田 健一	昭和女子大学 名誉教授
二村 英幸	近畿大学経営学部 教授
野内 類	中央大学大学院文学研究科 博士課程
野末 武義	明治学院大学心理学部 助教授
野瀬 出	文教大学生活科学研究所 客員研究員
野々村 新	日本大学法学部 教授
芳賀 繁	立教大学現代心理学部 教授

橋 本 泰 子	桜美林大学大学院国際学研究科 教授
蓮 見 将 敏	杉野服飾大学短期大学服飾学部 教授
長谷川 孫一郎	心情教育研究所長
畠 中 美 穂	立正大学心理学部 講師
服 部 敬 子	京都府立大学福祉社会学部 助教授
服 部 環	筑波大学大学院人間総合科学研究科 助教授
花 沢 成 一	聖徳大学人文学部 教授
馬 場 房 子	亞細亞大学経営学部 教授
馬 場 昌 雄	日本大学 名誉教授
林 潔	白梅学園短期大学 名誉教授
久 松 由 華	東邦大学医療センター大森病院心療内科 医局長
平 沼 博 将	福山市立女子短期大学保育科 専任講師
広 川 律 子	大阪千代田短期大学幼児教育科 教授
深 澤 伸 幸	(財)鉄道総合技術研究所人間科学研究部 主任研究員
福 岡 欣 治	静岡文化芸術大学文化政策学部 助教授
福 島 治	新潟大学人文学部 助教授
福 原 真知子	NPO 法人心理教育実践センター 理事長
藤 澤 伸 介	跡見学園女子大学文学部 教授
藤 田 主 一	日本体育大学体育学部 教授
藤 野 友 紀	北海道大学大学院教育学研究科付属乳幼児発達臨床センター 助手
藤 森 和 美	武蔵野大学人間関係学部 教授
藤 森 立 男	横浜国立大学大学院国際社会科学研究科 教授
藤 由 晓 男	福島学院大学短期大学部 教授
別 府 哲	岐阜大学教育学部 助教授
星 薫	放送大学教養学部 助教授
星 野 仁 彦	福島学院大学福祉学部 教授
細 江 達 郎	岩手県立大学社会福祉学部 教授
細 越 久美子	岩手県立大学社会福祉学部 講師
堀 洋 元	日本大学文理学部 非常勤講師
正 田 亘	立教大学 名誉教授
松 為 信 雄	東京福祉大学社会福祉学部 教授
松 浦 常 夫	実践女子大学人間社会学部 教授

- 松浦 均 中部大学人文学部 助教授
松下由美子 山梨県立大学看護学部 教授
松田英子 江戸川大学社会学部 助教授
松田浩平 文京学院大学人間学部 助教授
松田千都 聖母女学院短期大学児童教育学科 講師
松永保子 信州大学医学部 教授
松本洸 日本大学芸術学部 教授
三浦麻子 神戸学院大学人文学部 助教授
水上脩 元聖徳大学短期大学部 教授
水田恵三 尚絅学院大学総合人間科学部 教授
宮本聰介 常磐大学人間科学部 助教授
宮本美沙子 日本女子大学 名誉教授
村井潤一郎 文京学院大学人間学部 助教授
村上史朗 横浜国立大学安心・安全の科学研究教育センター 特任助教授
森下高治 帝塚山大学大学院人間科学研究科 教授
八木孝彦 中央学院大学商学部 教授
柳沢淳子 NPO 法人 APL・パラカウンセリング研究所 理事長
柳澤節子 信州大学医学部 助教授
矢野伸裕 警察庁科学警察研究所交通科学部 主任研究官
山入端津由 いわき明星大学人文学部 教授
山岡淳 日本大学 名誉教授
山口一美 文教大学国際学部 教授
山口豊一 跡見学園女子大学文学部 教授
山崎晴美 日本大学歯学部 助教授
山下玲子 武蔵大学社会学部 助教授
山田耕嗣 日本・精神技術研究所テストセンター 技術顧問
山本陽子 大阪千代田短期大学幼児教育科 専任講師
山本恵一 東京国際大学人間社会学部 教授
矢守克也 京都大学防災研究所 助教授
結城俊哉 筑波大学大学院人間総合科学研究科 助教授
余語真夫 同志社大学文学部 助教授
吉田悟 文教大学人間科学部 助教授

吉田俊和 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 教授
吉田信彌 東北学院大学教養学部 助教授
蓮花一己 帝塚山大学心理福祉学部 教授
和田万紀 日本大学法学部 教授
渡辺昭一 (財)社会安全研究財団 研究主幹
渡辺浪二 フェリス女学院大学文学部 教授
渡邊芳之 帯広畜産大学大学教育センター 教授

(2007年1月現在)

目 次

1. 認 知 心 理 学

認知心理学の展開	2	ワーキングメモリ	18
認知心理学の応用	4	ニューラルネットワーク	20
意識と感覚	6	言語理解と概念	22
注意と知覚	8	パターン認知	24
イメージの認知	10	推論と問題解決	26
シェマとスキーマ	12	洞察と思考	28
記憶のメカニズム	14	人工知能と情報処理	30
意味記憶	16	認知の制御過程	32

2. 感 情・欲 求 心 理 学

泣くから悲しい	36	EQ	56
悲しいから泣く	38	ブルチックの感情の心理進化論	58
悲しいと思うから悲しい	40	感情と人間関係	60
笑い	42	欲求の種類と感情	62
怒り	44	自己実現の欲求	64
悲しみ	46	達成欲求・達成動機	66
感情の身体的表現	48	自尊欲求	68
顔の表情	50	食欲と肥満	70
文化と感情表現	52	欲求不満	72
感情と記憶	54		

3. 発 達 心 理 学

人間の発達	76	乳児期後半の赤ちゃん	82
胎児の知覚世界	78	子どもの駄々こね・嗜みつき	84
そこで笑ってくれるから —乳児期前半の赤ちゃん	80	3歳児の優しさと4歳児の思いやり	
			86

乳幼児健診でわかること	88	モラトリアム	104
子どもの発達を支える仕事	90	働き盛りの心理	106
異年齢保育	92	中年期の「自分」探し	108
「1年生になる」ということ	94	親子関係	110
「9歳の壁」と教育の役割	96	歳をとることの意味	112
発達障害をもつ子どもたち	98	子育て文化	114
14歳、心の中に秘密の小箱	100	生きることの意味	116
社会的自立への道程	102		

4. 教育心理学

学習と条件づけ	120	スクールカウンセラー	146
モデリング学習	122	ピアカウンセリング	148
コンピュータと教育	124	児童と教師	150
学習意欲	126	適応指導教室の子どもたち	152
学習指導	128	学級崩壊	154
進学熱と学習塾	130	学校の危機管理	156
ゆとり教育	132	介護等体験と教育実習	158
学習障害	134	教師の再教育	160
キレる子ども	136	学力	162
いじめ	138	教育評価	164
不登校	140	テストの作成	166
体罰	142	偏差値	168
学校心理学	144		

5. パーソナリティ心理学

パーソナリティ	172	血液型と性格	190
性格のタイプ	174	ジェンダー	192
性格のプロフィール	176	多重人格	194
フロイトとユング	178	社会的パーソナリティ	196
夢の分析	180	知能の構造	198
質問紙法による性格診断	182	知能検査	200
作業の仕方による性格	184	知能の遺伝と環境	202
心の深層を知る検査	186	脳波と性格	204
絵が表す性格	188	偉人と天才	206

創造性——— 208 きょうだいの性格——— 210

6. 臨床心理学

面接———	214	遊戯療法———	240
治療的人間関係———	216	集団心理療法———	242
アセスメント———	218	コミュニティ・アプローチ———	244
DSM———	220	社会・文化と臨床———	246
コンサルテーション———	222	東洋的心理療法———	248
メディア・カウンセリング———	224	ひきこもり———	250
スーパービジョン———	226	アイデンティティ・クライシス———	252
精神分析———	228	心身症———	254
人間性・実存的心理療法———	230	依存症———	256
行動療法と認知療法———	232	パーソナリティ障害———	258
ナラティブ療法———	234	気分障害———	260
家族療法———	236	統合失調症———	252
ブリーフセラピー———	238		

7. 健康心理学

健康心理学が目指す人間像———	266	スポーツと健康———	282
健康維持の生理的メカニズム———	268	美容と健康———	284
疾病誘発パーソナリティ———	270	アニマル・セラピー———	286
ストレスコーピング———	272	ロハス (LOHAS)———	288
熟年危機———	274	旅と健康———	290
ダイエットと肥満———	276	健康の危機管理———	292
食育———	278	子育ち・親育ち・子育て支援———	294
健康食品———	280	健康の自己管理———	296

8. 看護・医療心理学

患者心理とケア———	300	妊娠と不安———	310
ボディイメージの喪失———	302	母子関係とケア———	312
援助的人間関係———	304	慢性病のケア———	314
身体接触ータッチ———	306	リハビリテーション———	316
医療（看護）技術スキルアップ———	308	労働者と健康障害———	318

ターミナル・ケア	320	医療現場のバーンアウト	330
在宅医療	322	医療安全	332
民間療法	324	医療被害	334
医療環境	326	医療倫理	336
チーム医療	328	医療情報の開示	338

9. 福祉心理学

福祉と心理学	342	障がい者の職業的自立	358
ノーマリゼイション	344	統合失調症患者への支援	360
クオリティ・オブ・ライフ	346	認知症患者への支援	362
社会福祉援助技術	348	虐待	364
福祉を学ぶ	350	外国人と福祉	366
障害児教育	352	過疎地の独居高齢者	368
障がい者への福祉	354	ノルウェーの独居高齢者	370
老人ホーム	356		

10. 犯罪心理学

犯罪者像	374	犯罪を誘発する環境	394
青年期の非行	376	犯罪マップと	
非行・犯罪はどのように 深化していくのか	378	地理的プロファイリング	396
企業犯罪と業務上犯罪	380	犯罪者プロファイリング	398
攻撃行動と犯罪	382	捜査と心理学	400
窃盗・強盗の発生過程	384	被害者の心理	402
性犯罪	386	被害者支援	404
薬物犯罪	388	裁判と心理学	406
詐欺の心理	390	少年非行の処遇	408
情報社会と犯罪	392	受刑者の心理	410
		刑事施設における矯正処遇	412

11. 社会心理学

自己の対人作用	416	メディア・コミュニケーション	422
認知的均衡モデル	418	対人魅力の要因	424
対人コミュニケーション	420	化粧行動	426

対人関係の展開	428	同調と逸脱	444
社会的迷惑行動	430	幸福の心理	446
援助行動	432	社会的スキル・トレーニング	448
攻撃行動	434	流行	450
対人葛藤	436	ステレオタイプ	452
リーダーシップ	438	うわさとデマ	454
対人関係と心理的健康	440	社会的ネットワーク	456
社会的ジレンマ	442	異文化適応	458

12. 産業・組織心理学

組織行動	462	社会的責任	486
採用選考	464	セクシュアル・ハラスメント	488
管理職の評価	466	過労死	490
能力開発	468	産業カウンセリング	492
成果主義	470	労働安全	494
キャリア発達	472	五感の体操	496
メンター	474	快適な仕事環境	498
ワークモチベーション	476	消費者心理学	500
職務満足感	478	接客の技法	502
ワーク・ライフ・バランス	480	ヒット商品	504
組織コミットメント	482	広告と消費者	506
職場のコミュニケーション	484		

13. 交 通 心 理 学

運転能力	510	交通事故の定義と交通事故統計	
運転適性検査	512	の分析	530
運転態度と性格	514	事故原因とヒューマンエラー	532
運転行動のモデル	516	歩行者行動と事故	534
速度と車間距離	518	高齢者の行動と事故	536
一時停止行動	520	飲酒・疲労と事故	538
カーコミュニケーション	522	交通違反と取締り	540
運転時の視覚探索	524	道路交通環境と事故	542
リスク知覚とハザード知覚	526	交通情報システム	544
リスクテイキングとリスク効用	528	航空事故と鉄道事故	546

運転者教育の方法	548	運転者再教育	552
初心運転者	550	企業における運転者教育	554

14. 災害心理学

災害の特質	558	災害と PTSD	574
災害と情報	560	災害と心のケア	576
リスク認知	562	救援者の惨事ストレス	578
リスクコミュニケーション	564	災害ボランティア	580
災害時の避難行動	566	コミュニティの災害対応	582
災害パニック	568	災害と組織文化	584
フループルーフと フェイルセイフ	570	災害とマスメディア	586
災害とトラウマ	572	災害文化	588
		災害の危機管理	590

15. 芸術心理学

芸術療法	594	文芸心理学	608
絵画・マンガと色彩	596	音楽演奏者と聴衆	610
芸術理論	598	芸術的創造の心理	612
音楽と感情	600	映像コミュニケーション	614
美術造形の心理	602	伝統芸能の達人	616
芸術鑑賞行動	604	瞑想と芸術	618
観客の心理	606	伝統芸術の心理	620

付 錄

【付録1】 心理学の歴史と理論	624	【付録3】 日本心理学諸学会連合・ 加盟学会一覧	647
【付録2】 さらに学びたい人のため の文献ガイド	637		

見出し語索引	653
事項・人名索引	657

応用心理学事典

平成 19 年 1 月 31 日 発 行

編 者 日本応用心理学会

発行者 村 田 誠 四 郎

発行所 丸 善 株 式 会 社

出版事業部

〒103-8244 東京都中央区日本橋三丁目 9 番 2 号

編集：電話 (03) 3272-0513／FAX (03) 3272-0527

営業：電話 (03) 3272-0521／FAX (03) 3272-0693

<http://pub.maruzen.co.jp/>

郵便振替口座 00170-5-5

© The Japanese Association of Applied Psychology, 2007

組版印刷・有限会社 悠朋舎／製本・株式会社 星共社

ISBN 978-4-621-07807-5 C 3511 Printed in Japan

本書の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は丸善（株）が保有します。

JCLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本書の無断複写は著作権法上の例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム（電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199, E-mail: info@jcls.co.jp）の許諾を得てください。